

ジルコニアの臨床応用

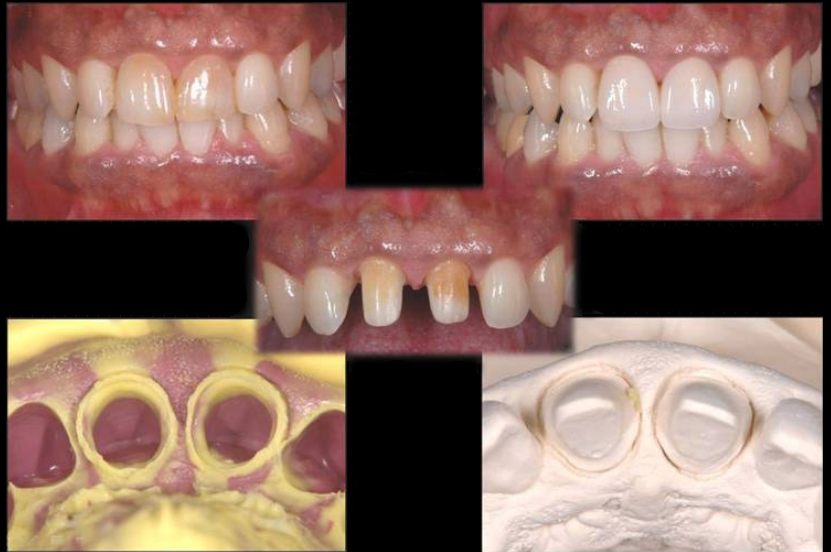
吉田 健 先生ご講演
Vol.2

今を遡ること半世紀前、メタルボンドに始まった歯科用セラミックの流れは、その後アルミナの登場や様々な紆余曲折と進化を経て現在、ニケイ酸リチウムガラス、酸化ジルコニウムの二大材料を主体とする様になってきました。

また、これと並行したCAD/CAMの技術発展により、近年では前述の材質によるフレームに陶材築盛～焼成という従来の概念にとられない、フルアナトミカルクラウンも台頭してきています。

日々診療にあたられている先生方も様々な情報が溢れ、患者様の高まるニーズに応えたいと思う一方、個々の症例に対するマテリアル選択等で悩まれることはありませんか？

そこで今回、毎年数多くのセラミック補綴治療を手がけられている、福岡県ご開業の吉田健先生のセミナーを開催する事になりました。当日は各マテリアルの詳細な特徴と選択基準、接着の理論と実際、形成、治療手技、またインプラント症例迄を含めた盛り沢山の内容で、オールセラミック臨床の最新情報を報告いたします。



日時 2020年 2月 23日 (日)
10:00～12:30
(受付 9:30～10:00)

会場 JA・AZM(アズム)ホール(中研修室)
宮崎市霧島1番地1-1 TEL 0985-31-2000

定員 50名 (対象: 歯科医師、医院スタッフ)

費用 2,000円(税込) ※医院スタッフ様は無料

こんな感想をお持ちの先生方におすすめ致します

- ◆オールセラミック全般の現状、最新情報を知りたい
- ◆ジルコニアは硬すぎて、調整やセット後を考えると不安
- ◆メタルボンドには歴史もあり、やはり安心感がある
- ◆フルジルコニアCrは強度に優れるが、色調が良くない
- ◆高強度のフルカントウアCrは対合歯への影響が心配
- ◆いま一度、〈接着〉について深く学びたい



■吉田 健 先生

1991年 大阪歯科大学ご卒業
2001年 よしだけん歯科クリニックご開業

その中であって、近年台頭してきたのがニケイ酸リチウムや二酸化ジルコニウムといったセラミックスマテリアルです。前述のPFMクラウンの長い実績と安定感に対して、その導入当初は、強度や適合面、また色調再現性について取り沙汰され、情報過多と思われるくらいの課題が歯科情報誌に掲載されましたが、時とともにそれらも整理されつつ臨床的進化・改良が重ねられていると感じています。

そのようなことから、最近ではその応用域も広がり、特にオールジルコニアクラウンとして審美性において満足できる経験を積んでいるので報告させて頂きたいと思います。皆様の臨床の一助となれば幸いです。

修復治療のマテリアルは、セラミックス、金属、レジンに大別され、これまでそれぞれの特性を生かしつつ歯科臨床への応用がなされてきました。しかし、適合精度と強度・審美と機能を兼ね備えた修復物となるとその設計に悩ましい思いをすることも少なくなく、臨床的にはPFMクラウンを選択する機会が多かった様に思います。

お申込み・お問い合わせ

別紙申込用紙にご記入頂き、FAX、TEL、またはHPからお申込み下さい。

主催: 株式会社 愛歯 宮崎営業所

TEL 0985-61-5839 FAX 0985-61-5842



←セミナーPV

YouTube
でチェック!

